

ゴルフにおけるドライバーショットの アドレスについて

高坂 茂*・勝村 靖夫**
佐々木 宏***・和田 敬世****

On Driving Address in Playing Golf

Shigeru KOSAKA, Yasuo KATSUMURA, Hiroshi SASAKI
and Takayo WADA

Abstract

To the great extent, addressing affects the results of driving in playing golf. There are three addressing ways which are "open address", "square address" and "closed address". This article is concerned with the direction and the position of the player to the ball, and analyzes the results of driving.

The analysis proves that "square address" brings about good shots in distance and direction. The article clarified the need of "square address" in improving the skill of golf.

1. はじめに

現代社会において、日常生活におけるスポーツは欠かざる部分を多く占めてきているように思われる。特に生涯スポーツの一つとして、昨今ゴルフは異様なまでのブームをみせはじめている。ことゴルフについては、たかが止まっているボールを簡単に打てない訳がないと思われがちであるが、しかしなかなか思うようにいかないのも現状のようである。われわれがゴルフを教わる時、いろいろな基本があり、そのなかにグリップとアドレス、テークバック、ダウンスイング等、数えあげたらきりがなくほどたくさんある。そしてまた、その一つ一つがゴルフのショットに大きな影響をおよぼすのも事実である。ゴルフスイングは始動からインパクトまで1.5秒¹⁾前後かかるといわれてい

る。つまり、ほとんど反射運動に頼るしかないのでありむずかしさがある。

ゴルファーの多くは、ショットの結果を優先するあまり基本をおろそかにしているように思われる。一般にレッスン書等においては、その基本の一つとしてアドレスが重要な項目としてとらえられており、特にスクエアアドレス²⁾の重要性を説いているのが少なくない。アドレスといっても、体の向き、ボールの位置、それに関連するグリップ、コースのライ等の要素があり一概にいいがたい。またプレイヤー自身、目標に対して自分のアドレスを見ることができないところにもむずかしさがある。このショット以前の最初に行うセットアップ、すなわちアドレスが上達への大きな比重を占めているものとする。

このことから本研究^{3,4)}では、目標に対するアドレスの実際を初級者、中級者、上級者を通して実験を行い、体の向きとボールの位置、及びショットの結果との関連を分析し、特にスクエアアドレスについて考察したものである。

昭和63年10月31日受理

* 一般教育部助手

** 一般教育部教授

*** 一般教育部助手

**** 一般教育部講師